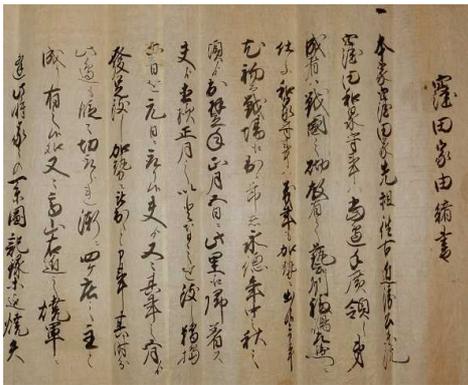


氷室家文書

氷室家は、給人格八人扶持の高槻藩士である。同家では代々、藩の兵学者を輩出し、高槻藩内で兵学の指導を行った。氷室家が藩へ仕官した時期は判然としないが、宝暦年間（一七五二〜一七六三）成立の高槻藩分限帳には、その名を確認できないため、これ以降に仕官した藩士だと推測できる。

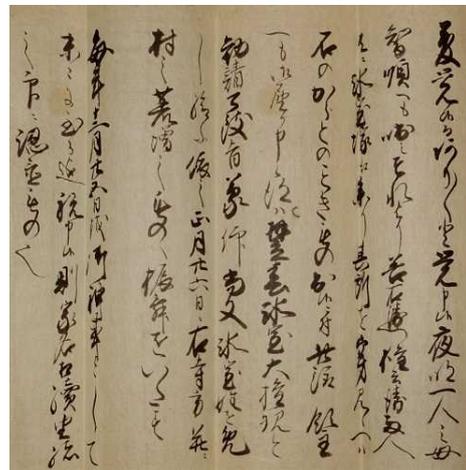
氷室家文書は、慶安三年（一六五〇）から明治十六年（一八八三）までの総数六十九点の文書群で、その内訳は近世文書が四十六点、近代文書が二十三点である。本文書からは、氷室丹治が、文化八年（一八一二）に扶持を与えられたことが確認でき、丹治の代から、善之助・荘右衛門・順三郎の四代にわたる事跡を辿ることができる。

最古の史料は、慶安三年（一六五〇）に窪田長左衛門安重が記した「窪田家由緒書」（文書番号1）である。これによると、先祖の窪田和泉守は、五



文書番号1 窪田家由緒書

撰家のひとつである近衛家の末流で氷室村近辺を領有し、その弟は福島正則に仕えたというが、和泉守の系図・古記録類は、高山右近の兵火によって焼失したとある。後半部は年中行事について記す。正月六日に「若餅つき」を行って、元日を祝うことや、正月には門松や注連飾りを飾らず、節分には鯛



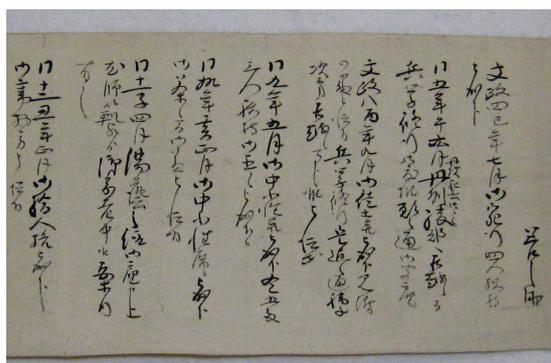
文書番号2 氷室塚由来書の部分

を柀に刺さないといった習俗が記録されている。なお、由緒書からは、窪田家と氷室家との関連を読み取れない。

承応三年（一六五四）の「氷室塚由来書之事并氷室家系図」（文書番号2）は、氷室塚の由緒と窪田家との関わりを記す。由来書によると、承応

二年（一六五三）十二月、窪田善右衛門の夢に白装束の夫婦が現れ、その夫婦は、古代に氷室の氷を天皇へ献上した人物で、善右衛門の先祖だと告げたといい。翌日、善右衛門が氷室塚へ行き、地面を掘ると「石のからと」が出たため、藩主へ報告すると、「氷室大明神」の勧請と、善右衛門が「氷室」姓を名乗ることを許されたという。所蔵者との関連については不明であるが、「石のからと」（石室カ）や氷室に言及しており興味深い。氷室塚は、現在の氷室町二丁目（小字名「塚後」）にあったとされ、旧来「氷室塚古墳」と呼ばれる前方後円墳だと考えられてきた。『高槻市史 考古編』でも紹介されるが、宅地化のため詳細は不明とする。過去の発掘調査でも古墳に関する遺構や遺物は出土しておらず、現在では池を掘削した際に発生した盛土だと考えられている。ただ本史料からは、江戸時代から氷室塚に関する伝承が存在したことが判明する。

次に氷室家の履歴を示す史料を紹介する。「氷室丹治履歴書上」（文書番号17）と、「上杉謙信輝虎御軍法」（文書番号30）に集録される「氷室家由緒書」によると、丹治は、文化八年（二八一二）に「御勝手末席」の合力米として五人扶持を与えられ、文政二年（一八一九）には給人格・御広間番に任命されて八人扶持を授かっている。この頃から高槻藩内で兵学の教授と、藩士への稽古を行っている。同三年には御茶之間番に任命されて出丸に屋敷を拝領したが、翌年、「不慎之儀」によって失職した。「不慎」の内容は不明だが、子息・善之助への相続は容認されている。



文書番号 30 氷室善之助の履歴の部分

丹治の子の善之助は、文政四年に四人扶持を授かり、翌年の丹治死去に伴い藩からの許しを得て兵学修行のために丹波国綾部藩（京都府綾部市）へ向かう。そして同八年には格が徒歩並、翌年には中小姓並になっている。同十年に父と同じく御茶之間番に任命され、二年後には給人格へ昇格したが、同年に「心得違」によって給人格次席に降格している。ただ、天保三年（一八三三）には給人格に復帰した。

庄右衛門は、丹波国綾部藩で兵学修行をし、修得後には高槻藩十一代藩主・永井直輝の前で兵学を講じたという。安政三年（一八五六）に五十六歳で没し、遺言により乾性寺に埋葬された。なお、庄右衛門の墓碑は、養子の安澄（順三郎）と門人の内藤宇門によって建てられた。

庄右衛門には実子がおらず、善我堂の儒者・三崎氏から順三郎を養子にとった。野身神社蔵の『永井家分限帳』によると、安政三年（一八五六）に、亡父庄右衛門の家督・六両三人扶持を相続し、給人格・御広間番に任命された。文久元年（一八六一）四月には、越後流兵学の修得のため、藩から銀五枚の修行料を授かり、同年六月から三年間の兵学修行を認められ、二人扶持を給与されている。慶応二年（一八六六）には「兵学出精」により稽古料二人扶持を与えられた。翌年十二月、高槻藩士が、長州藩の上洛に際して城に入った「籠城の節手配書写」（郡家文書・当館寄託）には、「冠木御門固」の藩士の中に「軍師方 氷室須（順三郎）の名が見える。

氷室家は、上杉謙信の戦闘方法を基にした兵学である「越後流」を代々修得し、藩内で教授した。「武門要鑑抄」（文書番号25）は、越後流兵学の基本的な教義書で、末尾には越後流を修得した人物として、「氷室善之助景隆」の名が見られる。

越後流兵学を修得すると、師匠から門人へ軍官免状という免許状が伝授される。元治元年（一八六四）の軍官免状（文書番号10）は、越後流の師範である野々村倫右衛門が、氷室順三郎へ伝授したもので、越後流学位の「権征軍師融貞弼号」が授与された。あわせて、上杉謙信が当初に名乗った長

氷室家文書目録

近世

文書番号	一括状況	文書名	年号	月	日	西暦	差出	宛名	形状	数量	法量	整理番号	備考
1	箱、袋	窪田家由緒書	慶安3	9	-	1650	窪田長左衛門、藤原安重	-	継紙	1	24.1×118	58	
2	箱、袋	氷室塚由来書之事并氷室家系図	承応3	正月	26	1654	窪田勘左衛門、藤原安則	-	継紙	1	24.2×76.1	57	袋一括（整理番号57～66）
3	箱	登船獨案内（版本）	享和元	3	-	1801	「氷室安隆 蔵」と有り	-	横帳	1	7.1×16.2	42	
4	箱	和漢名数（和本）	享和3	7	-	1803	皇都書舗 銭屋莊兵衛出雲寺文治郎	-	縦帳	1	11.0×7.7	39	
5	箱	建物太極答書	天保12	-	-	1841	吉田陰陽大允源有親	-	一紙	1	22.5×58.2	20	
6	箱	春粧真之大之図	弘化4	2	-	1847	梅園芳太郎宣家謹識	-	継紙（絵図）	1	55.2×70.4	10	百城之内八番地
7	箱	〔的弼秘事相承書〕	嘉永3	12	-	1850	氷室善之助	関巖殿	一紙	1	39.2×52.7	38	
8	箱	弘化三丙年六月十八日亡父廿五回忌相当諸事記	嘉永7	6	-	1854	-	-	横帳	1	12.5×34.4	23	付帳「嘉永七寅歳六月十八日廓然得悟居士三十三回忌相当法事修行諸事覚」とあり
9	箱	広畔院一貫義道居士葬式諸扣	安政3	5	20	1856	-	-	横帳	1	12.5×33.6	25	俗名 氷室莊右衛門 行年五拾六才
10	箱	軍官免状	元治元	9	28	1864	野々村倫右衛門景隆（花押）（印）	氷室順三郎殿	一紙	1	52.4×65.2	33	
11	箱	大備旗本図	元治元	9	-	1864	氷室安澄 写之	-	継紙（絵図）	1	12.1×82.8	37	
12	箱	軍官免状	慶応3	正月	11	1867	氷室順三郎景隆（印）（花押）	内藤宇門殿	一紙	1	52.2×64.2	09	
13	箱	相続識文	慶応3	正月	11	1867	氷室順三郎景隆（花押）（印）	内藤宇門殿	一紙	1	52.3×65.6	49	
14	箱	軍官免状	慶応4	正月	-	1868	氷室順三郎景隆（印）（花押）	内藤宇門殿	一紙	1	38.5×52.0	32	
15	箱	相続識文	慶応4	-	-	1868	氷室順三郎景隆（印）（花押）	内藤宇門殿	一紙	1	38.5×50.2	22	
16	箱	〔在町御目見座次書上〕	-	-	-	-	-	-	一紙	1	24.0×32.7	08	朱書「天保十五年辰八月三日 在町御目見、同日八ツ時揃にて御場所図之通」
17	箱、袋	〔氷室丹治履歴 書上〕	-	-	-	-	-	-	一紙	1	20.0×7.6	61	
18	箱	服忌令	-	11	30	-	酒井備後守家来 三井宇右衛門、石川主殿頭家来 高木源左衛門、松平豊後守家来 田副利大夫	-	横帳	1	9.7×15.7	12	元禄6年12月11日、元文元年9月15日の追記有。

19	箱	家名紙札（出丸氷室）	-	-	-	-	-	-	一紙	1	17.7× 10.4	01	
20	箱	家名紙札（出丸氷室）	-	-	-	-	-	-	一紙	1	17.4× 13.1	03	
21	箱	〔氷室家紋所書〕	-	-	-	-	-	-	一紙	1	14.3× 21.2	07	包紙付
22	箱	〔鎧櫃寸法図面書〕	-	-	-	-	-	-	一紙	1	18.0× 41.6	02	
23	箱	〔算法問答書〕	-	-	-	-	-	-	継紙	1	16.2× 38.2	05	
24	箱	玉刀流柔術極秘書	-	-	-	-	安隆	-	横帳	1	10.5× 18.9	14	
25	箱	武門要鑑抄（巻1～7）	-	-	-	-	-	-	横帳	1	13.9× 19.6	34	・巻末に権征軍師融貞剛弼氷室善之助景隆の名が有り。上杉謙信を祖とする。・書写本
26	箱	幢魂四種奥議	-	-	-	-	景隆（花押）（印）	不明（切取有り）	一紙	1	52.2× 65.4	48	
27	箱	三種神秘	-	-	-	-	景隆（花押）（印）	-	一紙	1	52.9× 65.4	50	
28	箱	幢魂四種奥議	-	-	-	-	景隆（花押）（印）	-	一紙	1	52.0× 65.5	51	
29	箱、袋	越後流秘傳	-	-	-	-	野々村景隆（印）（印）	-	一紙	1	36.1× 48.8	59	
30	箱	上杉謙信輝虎御軍法	-	-	-	-	-	-	巻物	1	15.7× 570.0	67	氷室丹治・善之助の履歴もあり
31	箱	〔成合、川久保鹿狩配置図〕	-	-	-	-	-	-	一紙 （絵図）	1	54.2× 64.6	16	彩色絵図
32	箱	〔川久保 宇新開 鹿狩配置図〕	-	-	-	-	-	-	継紙 （絵図）	1	39.7× 54.8	17	彩色絵図
33	箱	〔百城之内十六番本丸図〕	-	-	-	-	宣家 謹稿之	-	一紙 （絵図）	1	27.6× 39.7	18	
34	箱	五拾騎一備之図	-	-	-	-	氷室安澄 稿之	-	継紙 （絵図）	1	91.5× 45.6	19	
35	箱	四神相応之地	-	-	-	-	権征軍師融貞剛弼 氷室 善之助景隆 謹識	-	一紙 （絵図）	1	32.5×4	21	
36	箱	百騎陣取図	-	-	-	-	景幹 謹誌	-	継紙 （絵図）	1	60.0× 51.9	52	
37	箱	〔景虎公総繩之図〕	-	-	-	-	要門末寺融温児弼 源景 豊（印）	宮川権兵衛 様	継紙 （絵図）	1	99.4× 109.4	54	彩色絵図

38	箱	〔品川沖周辺絵図〕	—	—	—	—	—	—	一紙 (絵図)	1	38.1× 53.2	13	
39	箱	〔張紙書写〕 (人倫の道 につき)	—	—	—	—	—	—	一紙	1	24.0× 33.3	24	
40	箱	〔金紋付様心得等書上〕	—	—	—	—	—	—	横帳	1	16.4× 33.5	53	
41	箱	敬白起請文之事 (案文)	—	—	—	—	姓名 名乗 血判	要門兵談所	一紙	1	52.1× 65.3	26	
42	箱	妙振出風漢方書	—	—	—	—	—	—	一紙	1	17.3× 26.2	27	
43	箱	〔孟子・詩経 書写帳〕	—	—	—	—	—	—	横帳	1	9.1× 19.8	31	
44	箱	〔伊藤惟章書七言絶句書 上〕	—	—	—	—	—	—	一紙	1	23.5× 31.2	44	
45	箱	大学・中庸 (和本)	—	—	—	—	所有 氷室達次郎	—	縦帳	1	16.0× 11.3	36	
46	箱	諸国順覧懐寶道中図鑑 (版本)	—	—	—	—	—	—	折本	1	15.6× 7.6	41	

近現代

47	箱	記 (嘉永二丁酉八月廿五日 日医院開業の届につき)	明治5	11	—	1872	摂津国嶋上郡第一区 氷室邑江寄留御貴属士族 氷 室良造 (印)	—	横帳	1	26.8× 19.1	28	帳はずれ
48	箱	記 (嘉永二丁酉八月廿五日 日医院開業の届につき)	—	—	—	—	摂津国嶋上郡第一区 氷室邑江寄留御貴属士族 氷 室良造 (印)	—	横帳	1	27.0× 18.7	29	帳はずれ
49	箱	〔明治七年布達書写〕	明治7	4	2	1874	大藏卿 大隈重信	—	一紙	1	23.1× 18.2	11	
50	箱	〔明治七年布達之写〕	明治7	4	2	1874	大藏卿 大隈重信	—	一紙	1	23.1× 29.7	45	
51	箱	〔明治7戌年七日廿八日 布達之写〕	明治7	7	28	1874	—	—	一紙	1	24.0× 32.1	55	
52	箱	小学珠算稽古本 初等第 三級	明治16	3	9	1883	出版 編さん人 郡正光	—	横帳	1	10.9× 15.4	35	
53	箱	〔勝尾寺山内寶城院住職 隆賢・略歴書〕	—	—	—	—	—	—	一紙	1	24.0× 16.3	06	
54	箱、紐	〔朝政御一新につき書 上〕 (断簡)	—	—	—	—	—	—	縦帳	1	24.9× 17.3	43-1	紐一括 (43-1~43-3)
55	箱、紐	〔朝政御一新につき書 上〕 (断簡)	—	—	—	—	—	—	縦帳	1	25.0× 17.3	43-2	紐一括 (43-1~43-3)

